



新村の人口・世帯数
令和2年3月1日現在
人口 3,186人
世帯数 1,300世帯

あたらしい郷協議会 歴史講座開かれる

3月6日(金)「新村遺跡とその周辺古墳(遺跡)・その関連性」の講座が開かれました。講師は波田地区在住で上新出身の関通喜氏です。

コロナウィルス感染が話題になる中、18名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

安塚古墳群、秋葉原古墳群、新村遺跡、新村条理的遺構の調査結果から、古代・中世の新村周辺の様子を探ろうという興味深いお話でした。



講座の様子

古代に当てる古墳時代の遺跡として昭和53年からの開場整備事業で安塚古墳群や秋葉原古墳群が次々に発見された。ところが近世の開発で上部は破壊され、地下部分だけの石室が残る不完全な古墳でした。

両古墳群の特徴は、石室は地表下に造られている。出土遺物に馬具だけはない。下級官吏用の腰帯の飾り金具の副葬品が発見されている。美濃須恵窯産の土器がある。築造は7世紀後半から8世紀後半で、横穴式の石室をもつなどがある。

その後平成12年、松本大学の建設予定地の造成中に、新村遺跡が発見された。そして古代住居跡から、美濃須恵窯甕の発見があり、両古墳群の副葬品にも見られ注目されるという。

この新村遺跡の発見で、奈良井川以西の開発史に新たな展開と同時に秋葉原、安塚古墳と新村遺跡の村落の人々との関連性が、今後の研究で明らかになることを期待したいと話されていました。

人権啓発推進協議会 視察研修

2月14日(金) 16名で、蒙開拓平和記念館と椋鳩十記念館を視察しました。平和記念館では案内ボランティアの説明を聞き、館内の展示物を観ながら、悲惨な状況に胸が痛みました。終戦間際に突然のソ連軍侵攻で起きた悲劇は、正に地獄そのもので、戦争が起因する人間の残虐さに言葉を失いました。

次いで椋鳩十記念館を見学しました。自然と密着した山の民の放浪生活を題材にした小説「山窩」を世に出し、発禁処分を受けました。

なぜ戸籍も無ければ国家への義務も無い、自由奔放な人達の社会を描いたのだろうか。昭和初年の国家統制が強まった時代に対して警鐘を鳴らしたのかも知れません。

人権の大切さを考えさせられる1日でした。



お世話になりました

北原 保奈美

地域づくりインテーンとして、1年間お世話になりました。新村地区のみなさんとはとても前向きで、忙しいなかでも積極的に事業等に参加してくださいました。さまざまな場面で見民のみなさんが意見を活発に交わしあう姿は、とても印象に残っています。短い間でしたが新村地区のみなさんと地域づくり活動をするなかで、たくさんのお話を学ばせていただきました。本当にありがとうございました。



プチ送迎講演会での事例発表

北原さんは、松本大学地域総合研究センターの特別調査研究員として、新村地区地域づくりセンターを拠点に地域の課題や活性化に携わり、住民自治を支援する「黒子」として1年間活躍されました。

穂束八

最近ではテレビの俳句番組が盛況で俳句を楽しむ方が増えていくそう。夏井いつき先生のズバズバ、バツサリと軽快に添削するのも気持ちよく、出演者の俳句の感性に感心や共感もする▼新村公民館で月1回開かれる「くれき句会」は柳澤和子先生の指導も楽しく平成14年以来、2月29日で211回を迎えた。最年少だった私も若い参加者が入会して古参になった▼季節ごとの行事、花、草木、動物、食べ物など題材は豊富である。ずいぶん物事を観る眼も豊かになった。知らなかったことの多さに恥じることも。漢字の読み書きも勉強になっている。感性がいかに磨かれたかは疑問ではあるが良い勉強をしていると確信している▼信毎のMJプレスに俳句の投稿欄がある。私の実力では毎回の入選は難しいのだが、ジジくさいと言われるのが嫌で、若い感性で句を詠むようにしている▼気になる言葉を書き溜めたノートと歳時記を開き、言葉の迷路に入り込む。若い頃は俳句を詠むなんて思いもよらなかった。学生時代の不勉強を、これから取り戻していきたい。

未来へつなぐ私たち まちづくりの集い

第35回公民館研究集会

2月16日(日) 松本市中央公民館で「未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い」第35回公民館研究集会」が開催されました。

午前中は東京大学大学院の牧野篤教授の基調講演、午後は11の分科会に分かれて、それぞれのテーマに沿ってグループワークが行われました。第8分科会では「町内公民館の可能性を考えよう」と題して、主に「多世代交流」や「居場所づくり」について話し合いが行われました。



第8分科会の様子
参加者からは、町会役員の担い手不足や事業のマンネリ化など各町会ごと

様々な課題を抱えながら町会運営を行っているとの報告がありました。グループワーク後の発表では、「町会と町内公民館の関係性を見直したい」「若い世代が参加しやすい事業を展開していきたい」など抱負が述べられました。

公民館主催

「こけ玉はつく講座」

2月25日(火)こけ玉づくり講座が開催され、25名が参

加しました。こけ玉は、植物の根元を土で丸く包み、まわりにこけを貼り付けて固定したものです。

盆栽感覚で楽しめることから、インテリアとしても注目を集めています。こけ玉は適切な環境下で手入れをすれば、数年ほどは枯れずに状態を維持できるとのことです。

参加者のひとは「水を加えながら土をこねる作業は子どもの頃の泥遊びのようで楽しかった。緑色のまんまる姿は可愛らしく、早く家に飾りたい」と話していました。



泥をこねて…スカーレット?

「ひろば喫茶」に集いマ

マープルの会との共催で平成21年から始まった喫茶室は、毎回手作り菓子が好評で地区内外から多くの方が集い、交流する場となっています。しかし、今回保健所の指導でやむなく事業の中止を決めました。第2コムハウスや新村宅幼老所の方も楽しみに参加されていましたが、惜

シリーズ 私たちの先生

松本大学総合経営学部
総合経営学科 准教授
矢崎久先生



松本大学総合経営学部総合経営学科の矢崎久(やさきひさし)と申します。専門は臨床心理学です。▼数年前の、私が学生委員であった時のことになりましたが、新村地区に組織されている「あたらしの郷協議会」総会に参加させていただき、また、同会がなさる多岐にわたる活動の一部ではあります。松本市新村出張所、そして松本大学学生参加による牛伏寺断層帯地震発生を想定した地域防災訓練への参加と、各自が無線通信機器を携え、歩き、各自の目と耳で確認する一時

避難所の安否確認の方法を用いたことを思い出します。▼地震や豪雨など、これまでに経験したことのない大規模災害が発生した場合は、送電線や電柱などの損傷による電源喪失、携帯基地局の機能停止、インターネット回線の寸断による情報難民化が容易に引き起こされることは昨年の台風渦で明らかにされましたが、新村地区でおこなわれた防災訓練における安否確認方法は、スマートフォンなどが利用できない際の効果的な手段であるものと思われました。▼他方、情報通信網の損傷がなくとも、ツイッターやインスタグラムなどのSNS(ソーシャルネットワークサービス)を通して人々の不安が煽られ、増幅し、延いては買い占め現象や、特定の企業や個人の中

傷が引き起こされることは、今回の新型コロナウイルスの日本国内の感染拡大という、地震や豪雨災害などとは異なる「見えない恐怖・災害」の際にも、残念ながら、これまで容易に生じてしまいました。▼これまで、一見盤石そうに見受けられてきた日常は、体験したことのない不安に晒されると、人々は容易に不安に陥り、さまざまな情報源により不安は煽られ増幅し、結果として極端に走ったり、あるいは災害の発端者や関係者を攻撃することがある。▼これらを少しでも回避するための仕組みや実践のヒント新村地区の「あたらしの郷協議会」の組織、そしてそれぞれの部会活動にあるように思われます。

第32回新村地区 冬季室内競技大会

2月2日(日) 芝沢体育館で行われ、綱引き・卓球で熱戦が繰り広げられました。

【結果】

○綱引きの部(参加・9町会)

優勝 下新北

準優勝 上新西

第3位 北新中

○卓球の部(参加・9町会)

優勝 下新南

準優勝 上新東

第3位 山王



○卓球の部(小学生の部)

優勝 菅澤莉桜さん

準優勝 平林佳明さん

○卓球の部(中学生の部)

優勝 山田涼太さん

準優勝 酒井すみれさん

